

**4K 放送用カメラ対応 122 倍フィールドズームレンズに AF 機能を搭載
世界最高仕様の焦点距離とズーム倍率を実現したフラッグシップ機を発売**

キヤノンは、2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応した AF フィールドズームレンズとして、世界最広角^{※1}、世界最長望遠^{※1}、世界最高ズーム倍率^{※1}を実現した、“UHD-DIGISUPER 122 AF” と、フォーカスデマンドを 2022 年 7 月上旬^{※2}に発売します。



UHD-DIGISUPER 122 AF



フォーカスデマンド
FDJ-S31

新製品は、4K 放送用カメラ対応フィールドズームレンズとして、キヤノン初となる AF 機能を搭載したフラッグシップ機です。高速・高精度で動体追従性に優れた AF 撮影を実現することで、スポーツ中継やコンサートをはじめとした屋内外イベントなど、シビアなフォーカス精度が求められる幅広い 4K 撮影現場のニーズに応え、臨場感のある高精細な映像撮影が可能です。

■ 高速・高精度 AF を実現

HD 放送用カメラ対応の AF フィールドズームレンズ「DIGISUPER 100 AF」(2007 年 6 月発売)で市場から高い評価を得ているキヤノン独自の位相差 AF 技術を継承し、さらに 4K 動画対応に進化しています。大きくピントが外れた状態から高速でフォーカスを合わせる即応性や、動きの速い被写体に対して高精度にピントを合わせ続ける追従性を備え、自然でなめらかな AF を実現しています。

■ 広角から望遠まで幅広い焦点距離をカバーする高倍率ズーム

広角端 8.2mm から望遠端 1000mm の焦点距離で、2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応した AF フィールドズームレンズとして世界最高の 122 倍ズームを実現しています。焦点距離を 2 倍に変換するエクステンダーをレンズ本体に内蔵しており、焦点距離を 16.4mm から 2000mm に切り替えることも可能です。

■ フォーカスデマンド（別売り）を同時発売

HD 放送用または 4K 放送用カメラ対応の AF フィールドズームレンズに接続し、フォーカス操作を行うためのアクセサリです。AF 枠のサイズを 3 段階で変えることができるほか、AF 枠の画面内移動や AF モードの切り替え、3 種類の異なるフォーカスカーブの搭載など、撮影場面に応じた最適なフォーカス合わせを強力にサポートします。

製品名	希望小売価格	発売日
UHD-DIGISUPER 122 AF	オープン価格	2022 年 7 月上旬 ^{※2}
FDJ-S31		

※1 2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応した AF フィールドズームレンズにおいて、2022 年 4 月 12 日現在。(キヤノン調べ)

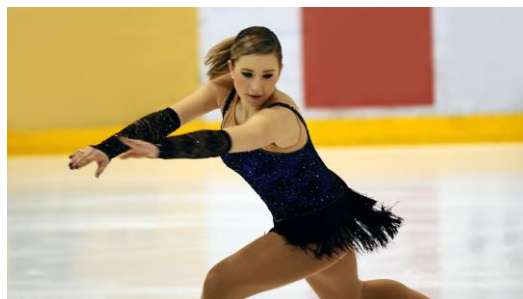
※2 仕様によりご提供時期が異なる場合がございます。詳細は販売会社にお問い合わせください。

- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3304
放送映像営業部
- 放送・業務用映像機器ホームページ : canon.jp/bctv

<UHD-DIGISUPER 122 AF/フォーカスデマンドの主な特長>

1. 高速・高精度 AF を実現

- ・HD 放送用カメラ対応の AF フィールドズームレンズ「DIGISUPER 100 AF」で市場から高い評価を得ているキヤノン独自の位相差 AF 技術を継承。新センサーを搭載し、新センサーに最適化した合焦検出・フォーカスアルゴリズムにより、従来特に評価の高かった合焦精度・動体追従性が 4K 動画対応に進化。
- ・大きくピントが外れた状態から高速でフォーカスを合わせる即応性や、動きの速い被写体に対して高精度にピントを合わせ続ける追従性を備え、自然でなめらかな AF を実現。



スポーツシーンなど、動きの速い被写体にも自然でなめらかな AF 撮影が可能

2. 広角から望遠まで幅広い焦点距離をカバーする高倍率ズーム

- ・「UHD-DIGISUPER122」（2019 年 4 月発売）の基本仕様を継承した、広角端 8.2mm から望遠端 1000mm の焦点距離で、2/3 型センサー搭載の 4K 放送用カメラに対応した AF フィールドズームレンズとして世界最高の 122 倍ズームを実現。
- ・焦点距離を 2 倍に変換するエクステンダーをレンズ本体に内蔵し、焦点距離域を 16.4mm から 2000mm に切り替えることも可能。



広角によるパノラミックな映像



望遠による大迫力な映像

3. 4K を超える高い光学性能を実現

- ・「UHD-DIGISUPER122」の光学性能を継承し、キヤノン独自の光学設計によって各種光学材料を最適配置することで、諸収差を良好に補正。画面の中心部から周辺部に至るまで、4K を超える高い光学性能を実現。
- ・キヤノン独自の特殊コーティング「ASC^{※1}」を採用。フレアやゴーストを大幅に抑制し HDR^{※2} や WCG^{※3} に対応した、抜けの良い高階調の映像表現が可能。
- ・高精度な補正を実現する ITU-R BT.2020^{※4} の補正データを搭載し、4K 放送用カメラ^{※5} の倍率色収差補正機能に対応。

※1 Air Sphere Coating の略。空気を含んだ超低屈折率層を蒸着膜層の上に形成する特殊コーティング。

※2 High Dynamic Range の略。映像の明部と暗部の輝度差（ダイナミックレンジ）を向上させる技術。

※3 Wide Color Gamut の略。映像の色域（カラーガンマ）を広げる技術。

※4 ITU（国際電気通信連合）策定の UHD TV 放送方式の映像信号を規定する勧告。HDR/WCG に対応。

※5 カメラによって色収差補正機能の搭載有無は異なります。

4. 4K撮影の表現領域を広げる快適な操作性と高い信頼性

- ・従来のHD放送用カメラ対応のAFフィールドズームレンズ*と変わらぬ機動性と運用性を確保。
- ・新たに情報ディスプレイを外装に搭載。さまざまな機能設定や調整が容易に可能。
- ・シフト式光学防振機構を搭載、幅広い周波数帯で高い抑振率を実現し、わずかな揺れが映像に大きく影響を与える4K撮影においても、安定した撮影を実現。



※ 「DIGISUPER 100AF」の外寸寸法は、約 250.6（幅）× 255.5（高さ）× 665（全長）mm。

新たに外装に搭載された情報ディスプレイ

5. フォーカスデマンド（別売り）を同時発売

- ・「UHD-DIGISUPER 122AF」をはじめ、現行のAFフィールドズームレンズで使用可能。
- ・従来機種「FDJ-P31」の高い操作性を継承したデザイン。
- ・FULL TIME/PART TIME AFの切り替え、マニュアルフォーカスへのスムーズな移行が可能。
- ・AF枠のサイズや画面上の位置、操作に対する移動速度、AFモードの切り替え操作が可能。
- ・3種類のフォーカスカーブを搭載し、撮影場面に応じた最適なフォーカス合わせを強力にサポート。

6. ARIA*1/RBF*2機能に対応

- ・ソニー製カメラ*3の「ARIA（Automatic Restoration of Illumination Attenuation）機能」による光量補正機能および、「RBF（Remote Back Focus）機能」によるフランジバック調整の遠隔操作に対応し、映像表現の拡大と映像制作現場の作業効率化を支援。

※1 ズームレンズのFドロップによる光量低下、および絞り開放付近での周辺光量低下を補正する機能。

低照度時の使用可能ズーム域拡大、絞り開放付近での光量平坦性を確保し映像表現拡大に貢献します。

※2 ソニー製のリモートコントロールパネルを使用して、ズーム・フォーカス操作およびフランジバック調整が可能。

中継車やVE室など、カメラと離れた場所から直接VEが調整可能とし、カメラオペレーターによる手動操作を不要とすることで撮影準備を効率化します。

※3 対応するカメラについては、ソニーへお問い合わせください。

<ご参考>

2022年4月23日（土）から27日（水）まで、米国ラスベガスで開催される放送・映像制作機器の展示会「NAB Show」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

<放送用レンズの市場動向>

日本や欧米諸国では、デジタルテレビ放送の普及にともなう放送機器のHD化がほぼ完了し、近年では、4K放送実用化に向けた取り組みが始まるとともに、4K対応機材の導入が加速しつつあります。一方、新興国では、今後デジタル放送への完全移行が予定されている国も多くあり、HD対応機材の需要も継続して見込まれるとともに、4K放送への関心も高まっています。（キヤノン調べ）

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。